

しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、ご判断ください。私たちは、見たことや聞いたことを話さないではいけないのです。」そこで、彼らは二人をさらに脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を崇めていたので、人々の手前、どう処罰してよいか分からなかったからである。（使徒4：19～21）

ペトロは、足の不自由な人を主イエスの名によって立ち上がらせた。驚く民衆に、ペトロは自分の力ではなく、十字架で殺されたが、復活した主イエスの名による信仰が癒やしたのでであると語った。このペトロの説教を聞いた神殿当局は、殊にサドカイ派の人々はいらだった。サドカイ派の人々は復活を否定する教理に立っていたからである。彼らは、ペトロとヨハネを捕らえ、翌朝まで留置した。しかし、二人の説教を聞いて信じた人が5千人ほどもいた。翌日、議員、長老、律法学者、大祭司アンナス、カイアファーなどの大祭司一族が集まり、最高法院の議会が開かれた。二人の使徒を真ん中に立たせ、「お前たちは何の権威によって、誰の名によってこんなことをしたのか」と尋問した。ペトロは聖霊に満たされて語った。民の指導者の方々から取り調べを受けているのは、足の不自由な人が何によって癒やされたかについてであるならば、イスラエルの民全体に知っていただきたいと話し始めた。そして、「この人が良くなって、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中から復活させられたナザレの人イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられ／隅の親石となった石』です。この人による以外に救いはありません。私たちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」と語った。最高法院はイスラエル最高の権威と権力を持つ議会である。普通の人なら、震え上がるほど恐ろしい所であるが、人々は、主イエスと共にいたガリラヤの無学な普通の人であるペトロとヨハネの堂々たる態度と応答を見聞きし驚いた。また、癒された人が側に立っているのを見ては、何も言い返せなかった。最高法院は、何も恐れない二人の態度と筋の通った応答に圧倒された。

そこで、二人を議場から退席させ、相談して、「あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムの住民全体に知れ渡っているので、否定しようもない。しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によって誰にも話すなと脅しておこう」と決めた。そして、イエスの名によって、一切話したり、教えたりしないように命じた。この命令に、ペトロとヨハネは「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、ご判断ください。私たちは、見たことや聞いたことを話さないではいけないのです」と答えた。二人は、主イエスにおいて現わされた神の出来事を見聞きした私たちは話さないではいけないと、最高法院の命令には従えないと明言している。最高法院の権威は失墜し、二人を脅してから釈放せざるを得なかった。エルサレムの住民は二人が行った出来事について神を崇めていたので、処罰しようがなかった。議会における尋問は、主イエスの裁判と同じように、尋問される者が堂々とし、尋問する者がおどおどしている状態である。ここに記された二人の姿は、福音書時代の彼らとは全く違う毅然とした態度を貫いている。著者ルカは、死の中から復活した主イエスに出会い、神を見た者が鮮やかに生まれ変わった姿を伝えている。